

みんなでつくる 森ものがたい

2022年3月6日発行 第141号

油山自然観察の森
森を育てる会



〒811-1355

福岡市南区大字桧原855-4

油山市民の森管理事務所内

TEL: 092-871-6969

FAX: 092-801-1463

<http://www.morikai.org/>

mail: aburayama@morikai.org



<12/12 納会>

も	表紙	1
く	活動ノート(12/5, 12/12, 1/9, 1/30, 2/6)	2~4
	特集「アカマツ林 幼木調査」	5~6
じ	油山のお仕事日記「グリーンウッドワーク」	7
	「世話役から」(納会)	7
	うん・えー会報告(12/5)	8
	活動予定	8

「森を育てる会」は福岡市油山自然観察の森の保全活動を通じ、広く緑地保全活動を行う市民の育成・交流を行う事を目的とする市民グループです。活動は(公財)福岡市緑のまちづくり協会の助成を受けて行っています。**会では、随時、会員を募集しています。**興味がある方はメールまたは電話でご連絡下さい。

活動ノート



12月5日(日)

アカマツ林(草刈り、萌芽枝刈り、伐倒木の処理)

13:00~15:40

◆参加者: 10名

◆内容: 今年最後のアカマツ林整備活動。この日はうん・えー会あとに午後だけの作業計画。道具準備を手早く済ませ、ミーティング、準備運動をしてアカマツ林へ向かいました。天候は風もなく穏やかで、動いていると少し汗ばむほどの晴天に恵まれました。



13時半、3班に分かれて作業開始。1班はA地区階段の両サイドとA・C地区の遊歩道沿いや緩斜面で草や萌芽枝を刈りました。アカマツの実生の日当たりを良くしながら、保護したい植物は残し、景観も考えつつ刈取り作業を行いました。

2班はD地区急斜面に生えたススキなどイネ科の丈の高い草や萌芽枝刈りをしました。背丈より高くなって八方に伸びていた、トゲにおおわれている萌芽枝には難儀しました。その一方、以前の作業で、一度裸地に近い状態にした作業道沿いには、他植物に蔽われながらもアカマツの幼木が育っており、これまでの作業に手ごたえも感じました。また、体験参加者には、ベテラン会員がアカマツ林づくりをはじめ森会活動について説明しながら一緒に作業しました。



3班は前回D地区斜面下で植生遷移を防ぐ目的で除伐したタブノキの材処理を行いました。直径30cm超、長さ20mはありました。玉切りや太い枝切りはチェーンソーで行い、切った材は鳶口を使ってヤードに移動しました。枝葉の量も多く体力のいる作業となりましたが、ヤードに至る作業道を塞ぐ形で倒れていた大径木の処理を無事終わることが出来ました。

この一年、作業は天候やコロナで思うようにいかないこともありましたが、皆でやっている事にはアカマツがその生長で応えてくれている気がします。



【ふりかえりより】

- ・前回伐倒した材処理をしました。30cmを超えると大変でした。とりあえず片づけましたが、まだ伐倒する木があるので足場の確保が思いやられます。
- ・今日はチェーンソーを使っての玉切り、十二分に楽しめました。
- ・暖かい陽ざしの中でシダ刈りと萌芽枝の除伐を行いました。

・2021年最後の活動は最高の天気でしめくくる事ができました。2022年は通常の活動ができますように！

12月12日(日)

納会

9:30~14:30

◆参加者: 15名

◆内容: センター前に9時半集合でミーティング。準備体操の後、カブトムシの森へ移動。カブトムシの森ではC→B→A地区に順に回り、ポイントごとに振り返りました。生き物や植物好きな皆さんなので、場所々々で目に付いた植物を見ながら、植物談義。予定より40分遅れてアカマツ林へ移動。アカマツ林では、入口でアカマツ林世話役より概要説明があり、A地区から順にみて回りました。



お昼は昨年と同じDとE地区の境付近でブルーシートを広げ、お弁当タイム。お腹が満たされた頃合いを見計らい、ひとりずつ今年は何をした、来年は何をしたい等を順番に語ってもらいました。その後、アカマツ林とカブトムシの森の現状、そしてこれからを語り合いました。また、子連れの会員が増えたので、活動にお母さんたちの声を反映するにはどうしたらよいかなども話し合いました。

大人たちがお話に没頭している間、子供たちは、みんなで仲良くとても楽しそうに草イチゴの収穫や探検をして遊びました。



お話が終わったところに恒例の笛吹童子のオカリナと縦笛の素敵な演奏に合わせて、マスク着用のまま小声で合唱。(演奏曲は「星めぐりの歌」、「カイト」、「世界の約束」、「となりのトトロ」) 眺めのよいアカマツ林で聞いた笛の音は、他所では聞けない素敵な音色でした。

そして、こちらも恒例のお楽しみ。子供たちは、アカマツの幼木が茂るエリアに大人が隠した14個の折り紙サンタさんを探し当て、みんなでお土産をもらいました。折り紙サンタさんの1人はみんなで見つかったのですが行方不明となり、空へ帰って行ったんだと子供たちに言い聞かせて、搜索を終了。大人たちは「松葉相撲」のトーナメントにて、勝者に大きなプレゼント、そして参加したみんなが小さなプレゼントをもらいました。



今年は想定外のコロナ禍の中、4月から活動を始めましたが、5、6月と8、9月が活動自粛となり、10月の臨時うん・えー会でコロナ対策を話し合い、10月から活動再開。活動日が半減した中、皆で協力してがんばり、草刈り、萌芽枝の除伐など例年並みの管理ができました。そんな中、振り返ると今年は子供連れの家族を始め、10名の新入会員が加わり、

会員51名、にぎやかな子供の声がこだまする良い年となりました。来年はコロナが静まり、森の中で自由に活動できる事を夢に見て、2021年を振り返らせていただきます。

【ふりかえりより】

- ・久しぶりに全体的な振り返りができ、課題もわかった。
- ・久しぶりに参加してモチベーションが上がりました。ただ楽しいだけではなく、専門的なお話が聞けて良かったです。
- ・カブ森、アカマツ林の変化を感じることができ、それぞれの森林の目標が聞けて目指す姿が分かりました。来年も参加できればと思います。
- ・いちごをとれたからよかった。
- ・初めての納会参加でしたが森会の基本がわかりよかったです。

特別活動

1月9日(日)

カブトムシの森

(楢木および薪用材づくり)

9:30~15:30

◆参加者：4名

◆内容：今回の活動は、2月27日(日)に予定されているシイタケコマ打ち用の楢木作りがメインです。併せて、残りの幹や枝を管理事務所が薪として有効活用したいとのことだったため、直径5cm以上の材は切りそろえ薪用材とすることとしました。



楢木用のクヌギは昨年11月7日に伐倒し、A地区で3本、B地区で1本、そしてC地区で2本準備したものです。楢木は直径20~25cm程度の幹を、管理事務所の希望により長さ120cmで切りそろえましたが、何分にも重たくて集積場所まで運搬する

のが本当に大変でした。また、薪用材は、大きすぎ、あるいは小さすぎて楢木としては不適当な幹や枝を、これも120cm(一部は80cm)の長さで切りそろえ、集積場所まで運搬しました。



当日の天気は曇り時々晴れて、気温も比較的高い作業のしやすい1日でした。ただ、参加メンバーが4名と少なく、大きな幹や枝の玉切り、そして重量物の運搬は本当にきつい作業となりました。それでも、チェーンソーを使える会員が増えたこともあって、何とか6本のクヌギの処理はほとんど終わることができました。



ただ、A地区の2本のクヌギだけは、直径が30cm以上あり、かつ人力では搬出しにくい急斜面部に横たわっていたため、時間切れだったこともあって、長さ6~8m程度の幹を未処理で残さざるを得ませんでした。

結果としては、25本の楢木用材と、かなりの量の薪用材を準備することができました。また持ち帰り用として直径10cm程度の小さな楢木も併せて準備しました。

これまでチェーンソーを扱う経験の少なかった会員も、徐々に扱いに慣れてきたため、これからも安全で効率的な作業ができそうです。

【ふりかえりより】

- 今日は研修を受けたチェーンソーの実践使用の玉切りができ勉強になりました。
- 楯木用としては大きすぎる大径木ばかりが残っていき、今後どうなっていくかが心配です。なるべく早く除伐する必要があることを実感しました。

1月30日(日)

カブトムシの森

(草刈り、クヌギ伐採)

9:30~15:30

◆参加者: 11名

◆内容: 現地で班分けをして、草刈り班はリーダー以下2名で植生調査区域周辺〜休憩小屋南側での草刈り。主にササと常緑樹の実生、萌芽枝を刈っていきましました。伐倒班は2班に分かれ、午前中に直径30cm前後のクヌギを各1本伐採しました。樹高が約20mもあったため、伐倒時は迫力満点でした。



午後はチェーンソーも投入しての材処理をしましたが、若干余裕があったので、更に1本伐採しました。切戻しの必要な切株がかなり残っていましたが、次回に持越ししました。作業日和の一日でしたが、道具の手入れ時に急に霰が降ってきて驚きました。

クヌギ林の萌芽更新に向けて、これまでコツコツ伐ってきましたが、A地区は大分雰囲気が出てきました。明るくなった林にどんな生物が出現するか楽しみです。

【ふりかえりより】

- 2022年は初めての活動。クヌギの大木の伐倒をしました。楽しかったです。
- 5月の植生調査にむけ、コドラート内のササを真剣に刈りました。

久しぶりに伐倒を見ました。伐倒の最中にフェンス際から「木を切ってる。ロープをかけてる。」と、実況中継のように見ている子がいました。森会ですよ、と言えばよかったです。

- 久しぶりに体を動かし、気分転換できました。
- クヌギが20mあったのでびっくり。カブ森を見渡すと萌芽枝も随分大きくなり、徐々に変わってるんだなと実感できた。



2月6日(日)

アカマツ林(幼木調査)

9:30~15:30

◆参加者: 7名

◆内容: 当日は天候に恵まれたものの、冷たい風が吹く寒さ厳しい中での作業となりました。

センター前でミーティングして道具を準備した後、斜面での作業に備えしっかりと準備運動をしてアカマツ林へ移動しました。

現地到着後、世話役を除いた6名を3名ずつ2班に分け、一班はA〜C地区もう一班はD〜F地区で、幼木の高さ、樹幹幅、樹勢や日当たり具合、周囲の幼木密度などの記録と、個体識別用タグがきちんと付いているかの確認を行いました。



途中、イノシシがエサを探して荒らしまわったと思われる跡があ

ちここにあり、その激しさに驚嘆しながらの作業となりました。

調査では、ここ数年で幼木もだいぶ大きくなり、2mの測量ポールでは高さや樹幹幅の計測が難しくなっていたので、今回から5mの箱尺(測量用スタッフ)を導入しました。

また、前は調査木の位置図がなく、探すのに苦労したため、今回は事前に位置図を作成し、各個体に目印のビニールテープをつけておきました。そのため、A〜F各地区合計で28本の幼木を手際よく午前中の内に調査することができました。

午後からは、密集気味の幼木の今後の成長を促すため、F地区で間引く個体の選定と伐採を行いました。その後残りの時間は、みんなで各地区のシダなどを刈り、幼木がより一層目立つようになったところで作業を終了しました。



2017年から開始した本調査も6年目となり一定のデータを得ることができたので、今後これまでのデータを分析したうえで、継続するかどうかなどを考えていく予定です。

【ふりかえりより】

- 寒かったですが、幼木の成長に驚き、嬉しさを感じながら楽しく作業出来ました。
- 幼木の調査をして生長を確認できました。今後は保護・育成をコントロールしていく段階になったんだなあ〜
- 初めての幼木調査。マツの成長におどろきました。また、E地区の草刈り面白かったです。

特集＜アカマツ幼木調査＞

（アカマツ林調査世話役 中嶋）

現在生育している成木の次の世代を担うアカマツ幼木の生育状況を把握し、保全計画に役立てることを目的に、平成 29 年から毎年行っている A～F 各地区幼木のサンプリング調査について、先日令和 4 年 2 月 6 日に行った調査の内容や調査結果について報告します。

■当日の活動内容

県内の新型コロナウイルス感染が一段と拡がり、多くの参加者が見込めない状況で活動日を迎えたが、世話役を除いて 6 名の参加があり、予定どおり調査を実施することができました。

ただし当日は天候には恵まれたものの、冷たい風が吹く厳しい寒さの中での作業となりました。

午前中の作業では、アカマツ林 A～F 地区の各地区で、生育条件の異なる幼木を数本ずつ調査対象木としてサンプリング（抽出）していますので、それらの樹高と樹幹幅（南北方向と東西方向）の計測と、樹勢、半径 1 m 以内の幼木本数、日照度などの記録を行いました。また、各個体に取り付けている識別用タグの取付状況の確認も行い劣化しているものは付け替えを行いました。

ここ数年で調査対象木の成長が進み、中には 4 m を超えるものもあり、以前から使用していた 2 m の測量ポールでは高さや樹幹幅の測定が困難となっていたので、今回新たに 5 m の箱尺（測量などで使用するアルミ製のスタッフ）を 2 本測定用に導入しました。はじめて扱う参加者もいましたが、すぐに使いこなしてスムーズに計測できていたようです。

また、昨年同様、A～C 地区を担当する班と D～F 地区を担当する班の 2 班に分かれて作業することができ、昨年の調査経験者も多数いたので、順調に進んでいましたが、事前に用意していた調査対象木の位置図に数本記載漏れがあり、あれかな？これかな？と斜面を右往左往して探していただく場面があり、ご参加の皆様には大変ご迷惑おかけしました。

それでも、時間に余裕をもって計 28 本の対象木の調査を無事に終えることができました。寒い中大変な作業でしたが、参加した会員の声を聞くと、幼木の生長を実感できた喜びの方が勝っているようでした。



（今回導入した箱尺を使用した樹高計測の様子）

午後からは、密集気味となっている幼木について、F 地区を中心に間引き対象木の選定と、その選定した個体の間伐作業を行いました。

実生幼木の生長が進み密集してくると、光を奪い合ったり枝葉が接したりして互いの生長を阻害してしまうので、生育良好な優性木を残して、間引きを行うことで残した個体の生長を促します。

ここ数年で整備作業が一段と進み、アカマツが生育しやすい環境となってきたことで、実生幼木もたくさん見られるようになり、それらが順調に成長し、次世代のアカマツたちの存在感が増してきて嬉しい限りです。

これまでの幼木を大事に大事に保護していく段階から、保護と育成をコントロールする新たな段階に入ったんだなと実感しながら、残りの時間は、みんな各地区的シダなどを刈って作業を終了しました。



（幼木が目立ってきた林内（A 地区））

■調査結果等

調査結果の詳細は次ページの表のとおりです。

枯死等で消失した個体もなく、樹高は全体平均で昨年度から約 35 cm伸びていました。前回調査時の全体平均では約 50 cmの伸びだったので、少し鈍化しているように見えますが、前回調査時は今回導入した 5m の箱尺もなく、2 メートル以上の個体の計測が正確に計測できていなかった可能性があり、その点が影響しているかもしれません。

最も樹高が高いものは A 地区の樹齢 12 年の個体で 4.8m。昨年から 95 cm、当初からの 5 年では 3.1mの伸びと驚きです。

また、枯死してはいませんが、B 地区の No.10 の個体は、草刈時に切られたような跡があり、頂芽が消失していました。40 cm程度と背丈も小さく目立ちにくかったのかもしれませんが。調査対象木にはオレンジのテープをつけていますので、草刈などの際は、ご注意のほどよろしくお願いします。

そのほか、F 地区の奥側には、まだ常緑樹が一部残っており日照度の評価が低いものとなっています。一方、A～C 地区でも日照度が前回より下がった個体が一部ありますが、こちらは付近のアカマツの成長によるものと考えられます。今後はこのような箇所の除伐や間引き等の整備作業を行っていく必要があります。

■今後について

この調査も開始から 5 年を経過し、一定のデータが得られたので、今後、一旦これまでのデータを分析して報告し、活動に活かしていきたいと考えています。また、この調査を継続するかどうかなども含めて検討していきたいと思います。

令和 4 年サンプリング個体調査結果表

No.	地区	樹齢 (年)	地形	斜面 方位	樹高 (m)					幼木密度 (本/1m)			日照度			樹勢			備 考
					当初 (H29)	前回 (R3)	今回 (R4)	差 (H29-R4)	差 (R3-R4)	当初 (H29)	前回 (R3)	今回 (R4)	当初 (H29)	前回 (R3)	今回 (R4)	当初 (H29)	前回 (R3)	今回 (R4)	
1	A	12	斜面	E	1.70	3.85	4.80	3.10	0.95	9	6	1	中	中	中	良	良	良	
2	A	11	斜面	SE	0.78	2.40	2.90	2.12	0.50	5	10	7	中	良	中	良	良	良	
3	A	10	斜面	SE	0.91	2.10	2.55	1.64	0.45	5	5	4	良	良	良	中	良	良	
4	A	12	斜面	E	1.13	2.60	3.05	1.92	0.45	5	5	3	中	良	良	良	良	良	
5	A	9	尾根	-	0.36	1.05	1.30	0.94	0.25	5	3	3	中	中	中	中	良	良	
6	A	10	斜面	SE	0.54	2.20	2.50	1.96	0.30	8	20	17	中	良	良	良	良	良	
A地区平均		10.7			0.90	2.37	2.85	1.95	0.48	6.2	8.2	5.8							
7	B	7	尾根	SW	0.20	0.70	0.95	0.75	0.25	3	1	0	中	良	中	中	良	良	切株上に生育
8	B	9	尾根	S	0.54	2.35	2.70	2.16	0.35	3	0	0	良	良	良	良	良	良	
9	B	10	尾根	S	0.48	1.60	2.10	1.62	0.50	4	0	0	中	良	良	中	良	良	
10	B	7	尾根	S	-	0.38	0.35	-	-0.03	-	2	2	-	良	良	-	良	中	R3～追加, 草刈時 頂芽消失。
11	B	7	斜面	S	-	0.65	0.85	-	0.20	-	1	1	-	中	中	-	良	良	R3～追加
B地区平均		8.0			0.41	1.14	1.39	1.51	0.33	3.3	0.8	0.6							
12	C	9	斜面	E	0.54	1.70	2.00	1.46	0.30	1	0	0	中	良	中	良	中	中	
13	C	9	斜面	E	0.44	2.00	2.60	2.16	0.60	3	0	2	中	良	良	良	良	良	
14	C	5	斜面	SE	0.19	1.25	1.70	1.51	0.45	6	10	7	良	良	良	中	良	良	R3～追加
15	C	5	斜面	SE	-	0.85	1.10	-	0.25	-	0	1	-	良	良	-	良	良	R3～追加
16	C	10	斜面	E	-	1.75	2.05	-	0.30	-	0	0	-	中	中	-	良	良	
C地区平均		7.6			0.39	1.51	1.89	1.71	0.38	3.3	2.0	2.0							
17	D	11	尾根	S	2.10	3.70	3.70	1.60	0.00	2	0	0	良	良	良	良	劣	良	
18	D	9	斜面	SW	1.23	3.00	3.50	2.27	0.50	3	0	0	良	良	良	劣	良	良	移植個体
19	D	-	尾根	S	-	3.20	3.80	-	0.60	-	0	0	-	中	中	-	良	良	H31～追加
20	D	12	尾根	S	1.25	4.00	3.80	2.55	-0.20	8	4	0	良	良	良	良	劣	良	
D地区平均		10.7			1.53	3.48	3.70	2.14	0.37	4.3	1.0	0.0							
21	E	10	斜面	SW	0.70	2.30	2.80	2.10	0.50	7	8	6	中	良	良	中	良	良	
22	E	5	斜面	SW	0.13	1.60	2.40	2.27	0.80	8	6	3	良	中	中	良	中	中	
23	E	-	斜面	-	-	1.80	2.40	-	0.60	-	3	3	-	良	良	-	良	良	H31～追加
24	E	4	斜面	S	-	0.60	0.95	-	0.35	-	2	1	-	良	良	良	良	良	R3～追加
E地区平均		6.3			0.42	1.58	2.14	2.19	0.56	7.5	4.8	3.3							
25	F	11	尾根	W	0.71	1.30	1.50	0.79	0.20	4	5	1	悪	悪	悪	中	劣	劣	調査後伐採
26	F	12	尾根	S	1.83	4.50	3.80	1.97	-0.70	-	2	1	-	中	中	良	良	良	調査後伐採
27	F	-	斜面	-	-	2.40	3.20	-	0.80	-	2	2	-	中	中	-	良	中	H31～追加
28	F	4	尾根	-	-	0.95	1.30	-	0.35	-	1	1	-	中	中	-	良	良	R3～追加
F地区平均		9.0			1.27	2.29	2.45	1.38	0.45	4.0	2.5	1.3							
全体平均		8.8			0.83	2.03	2.38	1.84	0.35	4.9	3.4	2.4							

※前回と今回の樹高差の平均値は、差がマイナス値となった No. 10、21、27 の個体の値を除いて算出している。(前回または今回の計測値が誤っていた可能性があるため)

油山のお仕事日記

「グリーンウッドワーク」

油山市民の森・自然観察指導員 小川真樹

「グリーンウッドワーク」という取り組みがあります。フレッシュな生木を柔らかい内にナイフで削り、カトラリーや家具などを作るものです。2021年に岐阜県からこの取り組みの講師を招いて研修会を行いました（下写真。森会代表もご参加ありがとうございます！）。その時の先生は20年来木工に携わり、この数年はグリーンウッドワークに力を入れているのだそうです。その先生曰く、現代の木工において、木材は市場に流通するものが使われるため、木工家が触れるのは樹木というよりは「木材」。制作物によって樹種もある程度定番のものが使われるそうです。しかも固い乾燥木材を工房で機械加工するというのが主流なので、作業場所は当然工房になります。木工家といえども、生きものとしての樹木や森林には距離感はあるのだそう。確かに、樹木医の大工さんとか、森林インストラクターの植木屋さんって少数派かも。みなさん専門に特化したスペシャリストとして活躍されますもんね。

そんな流れの中、木工と森林が、ぐっと歩み寄った形がグリーンウッドワークです。電気機械を使わないので、作業場所を選びません。極端に言えば森の中にナイフ1本で作業OKです（実際は道具箱一式くらい持っていきますが…）。森の中でのんびりスプーン作り…、幸せな感じです。材料になる木はそこに生えている全ての樹木が対象になり、木の性質の違いや生育環境までダイレクトに感じることができます。浜の漁師飯的な鮮度と感覚で木工を楽しめます。…スミマセンわかりにくい例えです。

2022年度は市民の森でグリーンウッドワークイベントを企画しています。一般の皆様と一緒にスプーンやフォーク作りを楽しむ予定です。岐阜の先生から学んだ技術や趣旨をしっかりと福岡に定着させる作戦です。そんな中で今私がかんばっているのが刃物の「研ぎ」です。グリーンウッドワークは多彩なナイフワークを用いるのですが、その技術はナイフがよく切れることが前提です。イベント発足までに、刃物の手入れができるようにならねばなりません。むむむ、がんばります。



「世話役から」

納会世話役 杉尾 さあな



1年の活動の振り返りと会員の親睦のために開催されるのが12月最後の活動、納会です。例年では焚火を囲んでデイキャンプスタイルでしたが、私が担当させてもらった2回は、コロナ禍で利用人数が制限され炊飯所の利用ができませんでした。そこで鎌田さんに納会の開催の有無から、どんな形なら開催可能か相談させてもらい、ピクニックスタイルでディスタンスをとりながらの納会なら開催できるのではないかなとなりました。

活動の前半は、1年間の活動振り返りとして実際の活動場所に移動し資料を見ながら説明を受けました。私はあまり活動に参加できていませんでしたので、その説明を受けながら今年どんな目的でこんな活動が進んだという事を知ります。五ヵ年計画で活動が進んでいる事など知らなかったのも、とても勉強になります。また「もっとこうすればいいんじゃないか」とか提案の場になっていたり、「なんですか？」と質問ができる場でもあるので、説明を受けながら皆で話し合い、活動の見直しも行います。子供はもちろん冬イチゴを囲んで遊びを♪

シートを広げて昼食の後は、皆で輪になって来年チャレンジしたい事を語ります。活動している時にはなかなか全体でワイワイお話しする機会はないですが、このような時間は納会ならではの時間だと思います。話の中では、どうしたらいいかな、こうしたらいいんじゃないかと色々意見が出てきて、来年に繋がっている事を感じます。子供たちからは「焚火がしたい！」の聲が一番多くあがりました。

納会のお楽しみでもある音楽会では、森の中でオカリナの演奏を楽しみました。森の中で素敵なオカリナの音色が響き渡ります。きっと生き物たちも一緒に楽しんでいきますね。（毎年ありがとうございます！）知っている曲を口ずさみながら本当に素敵な空間です。

またその後繰り広げられるゲームでは、大人も子供も「勝った！」「負けた！」「見つけた！」「どこだー！！あったー！！」「見つからない。うええん」など色々な声が飛び交います。最後はニコニコ笑顔で「また来年♪」となります。（詳細は参加してからのお楽しみです。）

納会の世話役なんて、できるかな…と思っていました。鎌田さんのフォローを受けながら自分なりに出来る事を出来る時に出来るなりでさせて頂きました。鎌田さん、本当にいつもありがとうございます。またカメウの場所やプログラムの印刷、演奏会や司会、道具の準備など、皆さんにほとんどを快く手伝ってもらってきた納会です。本当に感謝です。

うん・えー会報告

2021年12月5日(日) 9:30~12:00

出席者: 12名

1. 役割決定、資料確認

2. 9~12月活動報告(詳細は会報第140号参照)

9/5(日) うん・えー会、備品管理→中止

9/26(日) 削り馬体験会→中止

10/3(日) うん・えー会、アカマツ林作業

10/17(日) カブ森作業→中止

10/24(日) 安全講習会→参加者20名

熟練者ーロープワーク 熟練者以外一伐採

11/7(日) カブ森作業 榎木作り

11/21(日) アカマツ林作業 広葉樹除伐、萌芽枝刈

12/5(土) うん・えー会、アカマツ林作業

3. 9~12月 特別活動報告

10/10(日) 植生調査(草本調査)

4. 12~3月 活動及び特別活動予定

12/12(日) 納会、柏陵高校研修準備

1/9(日) (特別) シイタケ駒打ちのための榎木作り

1/14(金) (特別) 柏陵高校環境科学課研修

→29名(3班)、教師3名、森会3名、センター1名

1/16(日) アカマツ林作業

1/30(日) カブ森作業

2/6(日) アカマツ林幼木調査

2/13(日) カブ森作業

2/27(日) (特別) シイタケ駒打ち→一般参加 5組

3/6(日) 総会(年度末うん・えー会)

3/27(日) アカマツ林作業

5. その他

5-1 2022年度事務局引継ぎ中

5-2 予算消化状況報告

5-3 世話役活動の振り返り提出依頼→原稿を世話役宛MLにて送信済み。お手数ですが宜しく。

5-4 会報・森ものがたりについて

→見直しについて討議。発行回数年4回継続。

印刷部数・120部/回→会員向け分の内、ML(PDF)と紙でダブル分は再検討。

→市民向(各施設、過去の講師、情報プラザ、アスミン等)配布数は見直す。

掲載内容→活動報告、コラム、うん・えー会報告、活動予定、特集など現状どおり

コラム等→書き手を募集する。

5-5 2022年度の会費について(松雪)

従来ーボランティア保険は6歳以下は未加入

現状ー2021年度途中より、スポーツ安全保険に加入した(6歳以下も加入可能)

検討事項ー保険代があがるので種々検討し、案を作成して、総会(年度末うん・えー会)で提案する。

6. 発送作業 ①会報第140号

活動予定(2022年3月)

★〈作業〉〈調査〉〈観察〉は小雨決行

〈うん・えー会〉〈勉強会〉は雨天決行

活動時間: 9:30集合 ~ 15:30解散

★荒天の場合はセンターまでお問い合わせください。

★活動内容は、当日の参加人数、天候等によって変更になる場合があります。

★〈作業〉の標記のある日の服装は「森会スタイル」(長袖、長ズボンで安全に作業ができる動きやすい服装)でご参加ください。必要な持ち物は

いぼ付軍手・帽子・タオル・弁当・飲物・おやつ・筆記用具の他、必要に応じて着替え・雨具をご持参ください。



3月27日(日) アカマツ林作業

広葉樹の除間伐及び作業道補修を行います。

◆新年度の活動予定は今後、HPでお知らせします。

(<http://www.morikai.org>)

会員登録更新手続きのご案内

令和4年度から保険の都合上、会費の改定を行います。詳細は別紙の「会費改定のご案内」をご覧ください。

なお、保険手続きの都合上、会員の年齢(4月1日時点)が必要になりますので「会員登録更新手続き」の用紙をメール(もしくは郵送)にて必ず鎌田まで送付願います。

保険加入のため、書類の提出、会費振込などの更新手続きは、3/23締切りです。

お忘れになりませんように!!



油山自然観察の森 森を育てる会

会報『森ものがたり』 季刊

編集担当: 川上、西岡、鎌田、静間、松雪
